

月刊「キリスト教書評誌」

本のひろば

ISSN 0286-7001

一般財団法人キリスト教文書センター

1957年7月17日第三種郵便物認可

2022年5月1日発行(毎月一回1日発行)第773号

May
2022 5

● 出会い・本・人

無人島に持って行く一冊の本 高橋貞二郎

● 特集 神と暴力について考えるなら

この二本! 富田正樹

● 本・批評と紹介

近藤勝彦著 キリスト教教義学 上 神代真砂実

坂本道子著

ディアコニッセの思想と福祉実践 木原活信

早坂文彦著 「洗礼」をめぐる 富田正樹

水草修治著

新・神を愛するための神学講座 山口陽一

オサジエフォ・ウフル・セイクウ著/山下壮起訳

アーバンソウルズ ネルソン橋本ジョシユア諒

工藤万里江著 クイア神学の挑戦 絹川久子

浅野淳博著 死と命のメタファ 村山盛葦

近刊情報

バックナンバー表

書店案内

吉野作造と海老名弾正

吉野が「海老名門下のクリスチャン」とされる理由

關岡一成 著



大正デモクラシー運動の主導者・吉野作造に影響を与えたキリスト教精神の真髄とは、どのようなものだったのか。信仰の師と仰いだ牧師・海老名弾正との交流から吉野の「民本主義」思想の源泉を探る斬新な研究。

● 四六判・上製・222頁・定価1,980円

海老名弾正

その生涯と思想

關岡一成による「海老名弾正」関連書、好評発売中!



安中教会、本郷教会の牧師、同志社大学総長などを歴任し、雄弁と健筆によって多くの同時代人を感化した海老名弾正。膨大な史料と文献からその生涯をたどり、その思想の本質を明らかにする。

● A5判・上製・574頁・定価6,600円

海老名弾正関係資料



海老名の著書・論文目録のみならず、当時の著名人や新聞、家族等の海老名評なども含め、網羅的・多角的な視点から資料を収録した渾身の力作。

● A5判・上製・310頁・定価3,520円

人になれ人、人になせ人

クリスチャン・サムライ海老名弾正



明治維新により階級制度が解体し、「和魂」「東洋道徳」も崩壊した時代に、武士道・儒教の伝統を踏まえてキリスト教を受容し、普遍的「人間」の完成を求めた海老名弾正の実像を描き出す。

● 四六判・上製・170頁・定価1,100円

近日刊行「今さら聞けない?!」シリーズ第5弾!

ウイリアムス神学館叢書V

今さら聞けない?! キリスト教

聖公会の歴史と教理編

岩城 聰 著

聖公会(アングリカン・コミュニオン)とはどのような教会なのか。主教制とともに信徒の同意を重視する「実践の共同体」の特徴を、歴史と教理からやさしく解説。用語解説コラムと資料も充実!

● A5判・並製・220頁





無人島に持って行く一冊の本

高橋貞二郎

「もし、あなたが無人島で暮らすことになり、一冊だけ本を持って行けるとしたら、どんな本を持って行きますか」。

小学生の頃、何かの雑誌でそのような質問を見た。読者の答えとして、当時売っていた本、サバイバル関係の本などが紹介されていたように思う。その中で、忘れられない答えがあった。それは「聖書」である。売っていた本を選んだ人たちは、一人になった時間を利用して読むのだろうと思った。また、生活に必要な知識を与えるサバイバル関係の本を持って行くというのも納得できた。しかし、聖書となると、励ましになるだろうくらいしか理由が思いつかなかった。

さて、昨年のこと。無人島ではないが、冒頭のような選択を迫られることがあった。病を患い、一ヶ月近く入院することになったのだ。着替えなどを用意すると、他の物はほとんど病室へ持って行けない。持ち物の選択を迫られ、選んだのが聖書だった。毎日読む習慣があったのと、これまで困難な時に度々

励まされてきたからだ。

入院中、「これから先、どうなるのか」と不安になることがあった。そんな時「心をつくして主に信頼せよ」（箴言三章五節）の聖句が、今までよりもさらに心に響いてきた。また、一人病院のベッドで孤独を感じた時は「いつもあなたがたと共にいる」（マタイ二八章二〇節）の聖句を通して、改めて、どのような時も共におられて語りかけ、平安を与えて下さる主と出会った思いがした。まさに「聖書の中において、キリストは私達に出会い、また私どもに語りたもう」（E・ブルンナー『我等の信仰』豊澤登訳）である。この体験は、小学生の頃には考えつかない程、自分を力づけ、試練の中で生きる希望と勇気を与えた。冒頭で聖書と答えた人も、何かで似た体験をしたのかもしれない。今後、もし無人島に持って行く一冊の本を尋ねられたら、以前より確信を持って「聖書」と答えるだろう。

（たかはし・ていじろう＝東洋英和女学院副院長）



神と暴力について考えるなら

▼この三本！

富田正樹

(とみた・まさき・同志社香里中学校・高等学校教員)

豊かなフランスの少女ジャンヌが、戦乱のなかで成長し、百年戦争下の流血の地獄に身を投じて暴れ回る物語です。英国軍の荒くれ者たちに村を焼かれ、目の前で姉を犯され、殺された、その絶望と憤怒がジャンヌの原動力となっています。しかし、それに劣らず、さらに深いところから彼女を突き動かしているのが、幼い頃から彼女が体験し続けた神秘体験です。

「なぜ自分は生き残ったのか」と泣きじゃくる少女ジャンヌに対し、告解室の神父も神が何を望んでおられるのか答えることができません。にもかかわらず、そこで神父は「神はおまえが必要だからお前を選んだのだ」と告げてしまいます。ジャンヌは「今すぐ神とひとつになりたい」と望み、そこから彼女の神秘体験は更に深く強烈なものとなって、彼女は自分の召命感が絶対であるとの確信を抱いてゆきます。

今号の「この三冊！」は本ではなく映画を取り扱うことになりましたので、「この三本！」としてご紹介いたします。

キリスト教を取り扱った映画はいくつもあります。しかし、聖書の物語を脚色したり解釈し直すような映画は多い一方で、神の存在や信仰を根本から問い直すような物語を描くような作品は少ないように思います。

これからご紹介するのは、そのような「変わり種」の作品です。いずれもアクション満載で、視覚効果をふんだ

んに用いた娯楽性の高い作品ながら、宗教者に突きつける問いは鋭いものです。

なお、本稿の中で、ややネタバレ的になってしまふのは否めませんが、鑑賞の妨げにならない程度に極力抑えるつもりです。

『ジャンヌ・ダルク』(Joan of Arc)

一九九九年、リュック・ベッソン監督、ミラ・ジョヴォヴィッチ主演。

純真で信仰心が篤く、霊的な直感が

しかし、物語の終盤、ジャンヌは自分が聞く神の声の正体が本当は何者なのか、大いなる疑問に直面することになります。彼女の心の中に、「試みる者」が現れるのです。この「試みる者」による問いはとても重要です。

なぜなら、それは神の存在への疑問のみならず、これまでの歴史上行われてきた幾多の戦争に対する、根本的な問いでもあるからです。人間は「神はなぜ平和を与えてくださらないのか」と言いながら、自らの手を血で汚します。なんと身勝手に自己都合の理屈でしょうか。

この映画は、「神は平和の神ではないのか」「なぜ戦争に神は介入しないのか」と問う者に、「戦争を起こしているのは人間であり、その人間が神を戦争の道具に貶めているだけではないのか」と、逆に問い返しているように思えます。

神とは他者なのか。「啓示」は「本物」なのか。それとも、私たちは自分の見たいものを見、聞きたいことを聞いているに過ぎないのか。

そんな問いを突きつけながら、物語は大いなる皮肉によって締め括られることとなります。

『エクソダス 神と王』(Exodus: Gods and Kings)

二〇一四年、リドリー・スコット監督、クリスチャン・ベール、ジョエル・エドガートン主演。

“Gods and Kings”という副題は、神と神、王と王の戦いを表しています。片や自分こそがエジプトの神だと主張するファラオであるラメセス。片や奴隷たちの王モーセ。

モーセが初めて神と出会うのは、夢の中です。またその後、何度か彼は神と対話していますが、第三者から見ればそれは独り言に過ぎず、この映画では、神は彼の幻視であるかのように描かれています。

この神は名を尋ねられて「わたしだ(But)」とだけ答えます。この「わたしだ」は、かなり好戦的な神です。モーセの前に現れて、いきなりエジプト人との戦いをけしかけ、反乱のリーダーとしての使命をモーセに与えようとしています。しかも、モーセの戦いが物足りないと思うや否や、今度は自らを力を下し、エジプトの民を叩くのです。ここに登場する神が、モーセ自身のもうひとつの「わたしだ」であるならば、これはモーセ自身に潜む攻撃性を表しているのかもしれない。これはヘブライ人(ユダヤ人)の二面性を象徴していると読み取ることもできます。一方では奴隷制や虐殺の被害者でありながら、他方では好戦的な抑圧者という面もあるからです。

実際モーセは、自分たちがカナンの人に入る時には侵略者となることを予知しています。自分たちの民が国を築けるほど多いから問題なのだと言っています。これには、イスラエル批判の意図も込められているのではないかと私は思います。

あるいは、モーセと「わたしだ」との対話は、宗教心と人間性との葛藤を表していると解釈することもできます。宗教心は権利を勝ち取るために暴力を行使する危険性を持ちますが、人間性はそのような宗教心における攻撃性を抑制しようとするのです。

この映画では人間よりも神の方が暴力的です。そこに映画作家の宗教観がよく表れています。神は退場するべき存在であり、本当に人間を存続させるのは人間性なのだ、という主張を読み取ることができます。実際、物語の最後で神は退場し、モーセが石に刻んだ

法が民を治めるようになるのです。

(この映画には壮絶な津波のシーンがあります。鑑賞には配慮が必要でしょう。)

『ノア 約束の舟』(Noah)

二〇一四年、ダーレン・アロノフスキー監督、ラッセル・クロウ主演。

上述の二本と異なり、リアリティを追求した歴史物の体裁ではなく、聖書にあるノアの物語を大幅に翻案し、新しいファンタジーとして描きなおしたものです。

この映画では、超越者は「神」ではなく、一貫して「Creator (クリエイター・創造者)」と呼ばれています。一神教的世界観における創造論に基づいた神観であることは間違いないのですが、それでもできるだけユダヤ教、キリスト教にとられない普遍的な物語として語ろうという意図があるのか

もしれません。

このクリエイターは、何らかの姿をとって現れたり、はっきりとした声で言葉を聞かせたりはしません。「彼」はノアに、夢の中や薬を介した幻覚などを通して、物語としてのヴィジョンを見せ、自らの意図を読み取らせようとしています。

ノアが自分の見たヴィジョンを家族に話す場面で、クリエイターが宇宙や地球、そして地上の楽園を築いてゆく様子が描かれます。これは非常に美しいものです。この映像には、地球や生物の創造についての物理学的、進化的な解釈が行われていますが、ここは宗教界では賛否が分かれるところでしょう。

そして、このヴィジョンで示されるのは、いかに人間が互いに殺し合うことで歴史を形作ってきたかということでもあります。人間の「罪」は、暴力

の連鎖なのです。

クリエイターから与えられた(とノアが解釈した)使命は、人類を罰し、完全に絶滅させるというものでした。人間さえ生まれなければ楽園は永遠に続いたのに、人間が全てをぶち壊してしまいました。ですから人間を地上から一掃し、人間なしの楽園を一から再生するのがクリエイターの意図だということです。そして、その使命を遂行するために選ばれたのがノアなのでした。

ノアの終生のライバルが、カインの末裔であるトバル・カインです。トバル・カインは、人間こそクリエイターに似せて造られた者であり、全ての生物の上に君臨する最も偉大な生物だと主張します。しかし、その偉大な人間のしるしは、武器を作って人間どうし殺し合うことでもあります。トバル・カインにとつては、人を殺すことができるのが人間であることの証しなのです。

これは二つの極端な人間観の対決です。一方は、暴力こそが人間の証し

とするような罪深い存在は地球にはいないほうが良いのだという思想。もう一方は、あくまで人間こそが万物の霊長であり、戦い、殺し、奪ってでも、生き残り、成長し続けなくてはならないのだという思想です。

人間は滅ぶべきか。生き延びるべきか。人間が生き延びるためには、地球を破壊し、他の生命を殺し続けなくてはなりません。それを阻止するのがクリエイターの意図だとノアは信じています。

しかし、ある予想外の出来事から、ノアは自分の使命を遂行できなくなっ てしまいます。ノアが信じる「正義」とは異なる、もう一つの人間観への気づきです。そこにノアは、「正義」とも「罪」とも違う、何か善いものを発見し、自分たち自身が新しい人類と

なって再出発する道に導かれてゆきます。ひと言も言葉を発しないクリエイターの真の意図も、最後の場面で示されることとなります。

以上、三本の映画をご紹介します。暴力の源泉と責任はどこにあるのか。神は人間の暴力にどのように関与するのか、あるいはしないのか。

賛否はともかく、これらの作品は、娯楽として楽しみつつ、思索の材料とすることもできる、そんな両面を兼ね備えた映画として大変優れたものです。まだの方は、ぜひ鑑賞することをお勧めいたします。いずれもインターネットによる登録制の映画配信サービス(アマゾン・プライム・ビデオなど)で視聴可能です。

日本を代表する
神学者の集大成

〈評者〉 神代真砂実



キリスト教教義学 上
近藤勝彦著



近藤勝彦先生が『キリスト教教義学』（上巻）を出版されました。日本の神学界にとって画期的な出来事です。一人の著者による書下ろしの教義学ということでは、佐藤敏夫先生の『キリスト教神学概論』（第二版が一九九六年）以来ではないかと思えます。しかも、佐藤先生のもものが「概論」として圧縮された著作であったのに対して、近藤先生の教義学は上巻だけで一二〇〇頁もあり、組織神学の体系を形成するものとして先に出版された『キリスト教倫理学』と『キリスト教弁証学』を併せた分量を既に超えています。それだけの内容があることは言うまでもありません。

これだけの大作について限られた分量で読者の皆さんにご紹介するというのは無理と言う他ありませんが、ぜひ手にとって頂きたいという願いを込めて、以下にいくつかの

ことを記します。

まず、これまで私たちは近藤先生自身の教義学的見解について、間接的にしか知りえなかったのですが、この『教義学』の出版により、近藤先生の神学思想に直接に触れるようになりました。先生は、その最初の論文集である『現代神学との対話』以来、また、その題からも窺われるように、古今東西の神学者たちとの対話を通して思索を深めてこられました。その論文の数々から私たちは多くのことを教えられてはきましたが、「それでは近藤先生のお考えはどうなのか」ということについては、それらの論文で展開されている批評から窺うしかなかったのです。この『教義学』では、これまでの対話を踏まえながらも、先生 の思想・立場が明確に打ち出されています。近藤先生の数々の説教の根底にある神学思想を知ることが可能になっ

たという点からも、この教義学への興味は尽きません。

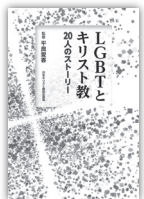
第二に、これほどまでに著者が自分の立っているところに明確な自覚をもって記した教義学というものは他にないと思われます。例えば、海の向こうでは、現在、アメリカの神学者のK・ソンダーエッガーが三巻物の予定で組織神学を書いています（第二巻まで出版されています）、神学的な問題状況については、もちろん意識していますけれども、教会の歴史的状況や自分が継承している信仰についての把握、ましてや伝道の意識などといったものが（あるとしても）表現されているわけではありません。しかし、近藤先生の教義学では、それが体系の中ではつきりと表現されています。それが記された序の部分の三つの章を読むだけでも、この国にいて神学に取り組むことの意義を深く

感じ取れるはずですよ。いや、そればかりか、自分でも神学をしたくなることでしょう。

最後に、当たり前のことながら、これが体系（秩序あるまとまり）であるということの大切さです。昔、ある出版関係の会議の席上、神学の他分野の先生が「今日、体系など不可能である」と言い放たれたのを思い起こします。しかし、一信仰者の信仰がバラバラのものの寄せ集めであるとしたら、どうして健全な信仰生活を営めるでしょうか。一貫性と明確な筋道を持った信仰を身に着けることに、この教義学は大きな貢献をするものだと思います。

（こうじろ・まさみ 東京神学大学教授「組織神学」）
（A5判・一二二〇頁・定価一四三〇〇円・教文館）

「信徒の友」2019年度連載に
書き下ろしを加えて書籍化



LGBTとキリスト教
20人のストーリー

平良愛香 監修

LGBT当事者を中心とした20名の体験記。性的少数者の生きづらさと同時に、社会や教会で確実に体現しつつある希望や実例を語り、性の多様性と可能性の豊かさを伝える。
四六判並製・240頁・定価2200円

49の命題で学ぶキリスト教思想史



キリスト教神学命題集
ユステイノスからJ・コーンまで

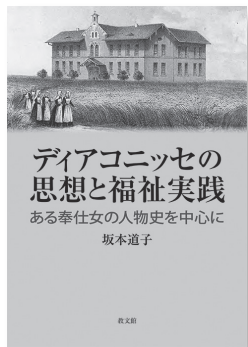
土井健司／村上みか
芦名定道／島田由紀 監修

49の命題を時代ごとに整理、各命題を生み出した神学者の生涯、時代的・思想的文脈、その影響を解説。
A5判並製・256頁・定価3520円

日本キリスト教団出版局
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457
E-mail eigyou@bp.uccj.or.jp 《価格10%税込》
<https://bp-uccj.jp>

「底点」の人々と共に 生きる天羽道子の生涯

〈評者〉 木原活信



ディアコニツセの
思想と福祉実践
ある奉仕女の人物史を中心に
坂本道子著



本書は、「ディアコニツセ」(ドイツで困窮者救済をする女性組織)の日本初の志願者・天羽道子さん(ベテスタ奉仕女母の家)の実践思想を詳細な歴史資料から人物史的に分析した研究であり、特にその意義をキリスト教社会福祉学の文脈に即して丁寧に論及した力作である。

著者とは、大学院生の時代から主に日本キリスト教社会福祉学会において三〇年来にわたって交流させて頂いた研究仲間である。また、研究対象である天羽道子さんとは、二〇一九年一〇月(当時九二歳)、同志社大学人文科学研究所主催「キリスト教信仰に基づく女性支援の歴史——かにた婦人の村の半世紀——」という特別フォーラムにお招きし、そのなかで「『共に生きる』ということ——『底点志向者イエス』に倣って——」というテーマで基調講演をして頂いた。その後に会食などを通じてゆっくりと交流し

たこともあり、本書に描かれている天羽さんの生涯と思想が一層、躍動的にリアリティをもつて伝わることとなった。ところで、本書で採用されている研究方法は人物史とされているが、通常、人物史とは過去の人物を対象とするものであるが、天羽さんは今もご健在であり、ご存命の方を対象とするのは異例である。その際に、メリットとディアメリットがある。メリットは史実のなかで不明な点を直接にインタヴューを通して明らかにし、行間を埋めていくことができる点である。本書でも、天羽さんへの直接のインタヴューが歴史資料と有機的連関をもち補完的役割を果たしていた。ディアメリットがないわけではない。人物史は偉人伝や伝記とは異なるので、研究対象を批判的に考察、分析することが必要不可欠であるが、ご存命の方を批判的に考察するには困難が伴うということである。

さて、本書で明らかにしているように、天羽さんは、上富坂教会の深津文雄牧師に強く影響され、特に深津牧師が主張する「底点志向」という福祉実践思想の継承者ということが出来る。それは「底点の人と共に頂点を目指してきた」生き方であり、特に、社会から排除され、生活に困窮する女性たち一人一人と一緒に生きてきた実践であった。

著者が本書で取り上げた特筆すべき分析方法は、実践思想を、抽象言語ではなく、五つの日常語の動詞を用いて集約して分析している点であろう。それは、「何かをしなれば」「なすべきことを為す」「させてください」「共に生きます」「お伝えします」という五つの言葉である。これは「キリスト教社会福祉が提唱していた『ディアコニア』

は、この五つの福祉実践の思想として、具体的に福祉の現場で福祉実践の行動を裏付けるものとして展開されていた」(本書二七一頁)と述べる通りである。そして、これらを通して、結論としても述べるように、「キリスト教社会福祉学会がめざしてきた『ディアコニア』の具現化を、福祉実践の中で行ったのではないかという仮説」(本書二八二頁)の検証がなされており、十分に説得的であった。著者のライフワークである本書をキリスト教社会福祉の関係者のみならず、多くの人に読まれることを期待する。

(きはら・かつのぶ 同志社大学教授
A5判・三〇四頁・定価四八四〇円・教文館)

キリストの十字架と復活を
圧倒的な説教で聴く。

説教

日本基督教団代田教会牧師
平野克己 著

十字架上の七つの言葉

イエスの叫びに教会は建つ



イエスと共に、赦し、愛し、結び、渴き、叫び、ゆだねる……
その道行きを、圧倒的な説教として新進気鋭の画家井上直の作品と共に静かに辿る。
危機の時代を歩む教会に、新たないのちを吹き込む説教の言葉がここに!

目次

- I 十字架のもとに建つ教会
「父は彼らをお赦しください。」
- II 今日、あなたは楽園にいる
「あなたは今日、わたしと一緒に楽園にいる。」
- III 十字架のもとに生まれる家族
「御覧なさい、あなたの子です。見なさい、あなたの母です。」
- IV わが神、わが神、なぜわたしを
「エロイ、エロイ、レマ、サハクタンニ。」
- V 主イエスの渴き
「渴く。」
- VI 成し遂げた主
「成し遂げられた。」
- VII わたしの霊をあなたの御手に
「父よ、わたしの霊を御手にゆだねます。」
- (復活祭) VIII 闇の中を歩くとき、光のないときも
「わたしを愛しているか。」

四六判・220頁・定価1,870円(税込)

キリスト新聞社 since 1946
169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
AVACOビル6階 TEL 03-5579-2432

バプテスマを 本来の姿に引き戻す

〈評者〉富田正樹



「洗礼」をめぐって
今日聖書はなにを語っているか
早坂文彦著



本書が生まれるきっかけは、「未受洗者陪餐をめぐってある若い牧師から問われた」ことであつたと、著者はあとがきで述べておられる。そのことから著者は「洗礼（バプテスマ）」という語をめぐる一連の説教を語り、それが本書という形になった。

いわゆる現住陪餐会員が激減して教会の規模がみるみる縮小し、加えてコロナ禍の打撃を受け、日本のキリスト教会は満身創痍である。これは、私たちが企ててきた「伝道」「宣教」の計画がこれでよかつたのか、何が大切なのかを根本的に見直す（遅すぎたかもしれない）機会である。著者は、この問題に対して「だからこうすれば良い」という方策を提言しているのではない。そうではなく、そもそも「バプテスマ」とは何であるかを、聖書の言葉から丹念に掘り起こす作業を記録したのが本書である。だからこ

れは、いわゆる教会教育のゴールとしての「洗礼」を解説する本ではない。

著者にとってバプテスマとは、制度でもなく、教会の入会儀礼でもなく、教会の組織を維持するためにあるものでもない。イエスの受けたバプテスマだけが真のバプテスマであり、現在教会で行われているものは、バプテスマの真髄ではないという。

本来「バプテスマ」とは「溺死させる」という意味であり、イエスの洗礼とはイエスを水にぶっ込んで殺すということである。イエスがバプテスマを受けたということは、まずイエスが殺された（受難した）ことを象徴しているのであり、もし私たちがこのイエスのバプテスマにあやかうとするならば、イエスと共に苦しみを引き受けることに他ならない。

ち人間と苦しみを共にしているかを説いている。

本書を通して読者は、イエスがバプテスマを通して何を思い、またイエスの志を継ぐ人びとが何を思って行動したのが、臨場感を持って迫ってくるのを感じ取るであろう。「洗礼」を受ける者を増産することを「宣教」と称する教会（殊に日本基督教団）の体質に否を突きつけ、手垢にまみれた教会政治からイエスを解放すると同時に、それでもなお「分裂と不和の痛みを共有することに、共同体の力が秘められている」と示唆する希望の書でもある。

（とみた・まさき）同志社香里中学校・高等学校聖書科教員
（新書判・二三四頁・定価二二〇円・ヨベル）

「神の救済の歴史」は、伝道や教会の成長、発展とは無関係だし、究極的には教会も信仰告白も必要なく、本当に必要なのは自分が直接神と結び付けられるということだとも説く。未受洗者は未受洗者のままでイエスを信じ、イエスの愛を実践する道も開かれている。教会の行う「洗礼」はイエスと連帯する者となる条件ではない。

著者の洗礼論は非常にラディカルで、一見過激なようだが、終始平易な言葉で語られる、聴く人に優しい説教である。聖書の原語の解説もわかりやすく丁寧な日本語で解説されており、言葉の運用がいかに重要であるかがよく伝わってくる。そして、聖書を通して、神がいかに人間を断固たる愛をもって大切にしているか、いかにイエスが私た

「ヨーロッパ思想史」

金子晴勇 キリスト教思想史の諸時代

全巻ご予約承り中

ルター の思索



ルター神学を「思索」を基に捉えた意欲作。自己の「繊細にして感じやすい」良心は、アンテナ効果によって神を感じる。良心が律法との関係に立つとき、何が良心に起こってくるのか、そしてそれに対して良心はどのように応じているのか、という良心現象の考察。

077 新書判・272頁・1320円

キリスト教思想史の諸時代 全7巻別巻2

- I ヨーロッパ精神の源流（再版！ 既刊）
- II アウグスティヌスの思想世界（既刊）
- III ヨーロッパ中世の思想家たち（既刊）
- IV エラスムスと教養世界（既刊）
- V ルターの思索（最新刊）
- VI 宗教改革と近代思想（第六回配本 編集集中）
- VII 現代思想との対決（第七回配本）
- 別巻1 アウグスティヌスの霊性思想 第八回配本
- 別巻2 アウグスティヌス三位一体論の研究 第九回配本

新書判・平均264頁
各巻1,320円

金子晴勇 東西の霊性思想 本仏教と日
再版出来・四角下製・280頁・1,080円

ヨベル YOBEL Inc. info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷 4-1-1-5F
TEL.03(3818)4851 FAX.03(3818)4858
出版の手引き / 呈 (税込)

伝道と牧会の現場から 紡ぎ出された組織神学書

〈評者〉 山口陽一



新・神を愛するための 神学講座 水草修治著



水草牧師の口癖は「要するに」である。煩雑な議論を咀嚼してまとめてくれるので、ややこしいテーマも、スツと理解できて、ありがたいことこの上ない。私が牧師として

仕えていた日本同盟基督教団徳丸町キリスト教会の一九九〇年度の夕拝で、神学校の同級生である彼に教理説教をしてもらい、これを七一頁の小冊子にしたのが『神を愛するための神学講座』第一版だった。手作りで増補を重ね、二〇〇〇年の第四版できちんと製本され、ウェブ掲載、雑誌『舟の右側』連載と、その後の大幅な加筆により本書が完成した。地方での開拓伝道と牧会を続けつつ、すぐれた神学教師としての三〇年の営為の成果である。

被造物世界の多様性と統一性を、著者はこんな身近なたとえて説明する。「おにぎりは強く握りすぎると団子のようになつて美味しくなく、弱すぎるとバラバラで食べにく

いものです。存在論的にすぐれたおにぎりとは、一体性を保ちつつ、しかも、一粒一粒のお米が生きているものです。大切なのは多様性と統一性のバランスです」（一六一頁）。

哲学から組織神学に進み、教理史にも造詣が深い彼の用語と定義は確実で、論理は明快、研ぎ澄まされた言葉を随所に見出すことができる。たとえば、創世記冒頭の「混沌」より「茫漠」（一八六頁）、ヨハネ福音書冒頭の「神とともに」は「神に向かつて」がより適切（一四〇頁）など、聖書翻訳への言及。「贖罪論」ではなく「贖い論」、「古典説・劇的説」を「対悪魔勝利説」と言い換え（三一六頁）、「国家」ではなく「俗権」（五〇六頁）を用いるところなどである。父・子・聖霊の神（二二三頁以下）、人間の構成について二分説と三分説を語るどころ（二二九頁以下）、

予定論論争をどう考えるか（二六三頁以下）などの整理の

仕方は抜群である。また、古代教父の教えを継承した『神のかたち』のかたち」としてのキリスト論的人間論が、聖書理解の鍵として一貫して展開されている。聖定のゴールを見定めること（二四七頁）とか、試練が神の民の成熟にとつて重要（二〇三頁）などの視点、「偶像（被造物）

の前にひざまずき拝むことは愚かである。人間は、むしろそれらを治めるべきである」（一五八頁）、十字軍精神でなく十字架につけられた精神（三二二頁）など、深い洞察から紡ぎ出された言葉が心に残る。

しかし、何と言つてもこの本の眼目は、バランス良く神学の全体を自家菜籠中の物として語り尽くす総合力である。聖書の啓示の特徴とその解釈のあり方を示し、改革派神学をベースに持ちつつも特定の神学に拘泥せず、一貫して聖

書から「神のご計画の全体」を学ぶ助けとなりたい、これが本書のめざすところである。

「創造記事と進化論」（一六五頁以下）や「E・P・サングラスとN・T・ライトの義認解釈」についての付説（三六九頁以下）などは、突っ込んだ議論がなされており、創造の六日間の「日」の解釈にも独自の意見を述べて、怯むところがない。サン・ヴィクトール修道院のリチャードの三位一体論は、第四版でも紹介されていたが、理解が一新されており、思索の深まりを覚えさせられた。

本書は、日本の福音派の組織神学として待望の著作である。これを巡る議論が交わされ、『新・神を愛するための神学講座』が、神学の公共財として成熟していくことを願つてやまない。（やまぐち・よういち 東京基督教大学学長

（四六判・五九二頁・定価二八六〇円・地引網出版

ヨベルの新刊案内

P・T・フォーサイス 川上直哉訳著 第2弾!
『活けるキリスト』の現代的意味併録

危機の時代を生きるための古典! フォーサイス名説教の邦訳と訳者による解説、フォーサイス神学理解の一助となるミドレイ、ケイブラの論考を併録。津波。そしてコロナパンデミック、ウクライナの戦争…。終わらなき危機の時代をキリスト者として生き抜いていくための叡智と勇氣をここに。

078 新書判・1992頁・1210円

潮義男 付録・ホーリネス誌掲載随想集
創世記23章〜50章 新型コロナウイルスと教会

人のドラマカル、神の物語か。尽きせぬ魅力を描写する。愛する者の死と葬儀、兄弟・姉妹・親族間の確執と葛藤、故郷喪失のあてどない放浪。待望の下巻。075

新書判・344頁・1320円

ヨベル YOBEL Inc. info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷 4-1-15F
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858
出版の手引き / 呈 (税込)

ヒップホップが顕す 《声》の霊性

〔評者〕ネルソン橋本ジョシユア 諒



アーバンソウルズ
黒人青年、宗教、
ヒップホップ・カルチャー
オサジエフオ・ウフル・
セイクウ著
山下壮起 訳



米ミネソタ州でジョージ・フロイドさんが白人警官に殺害された事件から二年が経つ。社会の周縁を生きる多くの若者が、アメリカの《原罪》ともいえる人種差別に対して憤りと苦しみを感じ、制度的人種差別と警察の残忍行為に対して抗議の声を上げた。しかしこの事件以降も、アメリカ各地で黒人の命が奪われ続けている。事件が起きるたびに、《ブラック・ライヴズ・マター》(BLM)の抗議運動が再燃し、差別と暴力の連鎖を断ち切るために人々が連帯する。それにもかかわらず、黒人たちの尊厳は繰り返し傷つけられ、否定されている。フロイドさんは、八分四六秒の間、警察官に首を押しえつけられて亡くなった。「いつまで、わたしの魂は思い煩い／日々の嘆きが心を去らなにか」(詩篇一一三・三三)、と叫びたくなるような事件が絶えない。

本書の原著は、BLM以前に書かれたものではあるが、黒人社会の「いつまで」という嘆きに真正面から向き合っている。著者オサジエフオ・ウフル・セイクウ牧師は、神学者として聖職者として、「人間の苦難に終わりをもたらすことができるのか」という実存的問いに悩まされ続けてきた。本書は、ミズーリ州東部での黒人青年の殺人事件とその葬儀の場面から幕を開ける。セイクウ牧師は、過酷なストリートの現実と黒人の実存・経験から、ヒップホップと黒人神学の関係性を鮮やかに紐解いていく。統計データとラップの歌詞を用いて、若い黒人の貧困や都市の問題に注目している。ヒップホップ・カルチャーを神学的に再解釈し、ヒップホップ世代を「神学的行為者」として捉え直すのである。ヒップホップを通して、伝統的教会とはオルタナティブな霊的・宗教的な言説と生き方が構築できるの

だと主張している。ローリン・ヒルやトゥーパック・シャクルなど、代表的なアーティストの歌詞を解説しながら、ビートとリリックに沿って、聖書の預言者的な霊性と抵抗の声を見出していく。また、黒人教会が批判してきたギャングスタ・ラップにも新たな光を当て、インナーシティの黒人解放の可能性を展開する。

本書は私たちに、インナーシティの劣悪な環境と構造的暴力に苦しむ人々へ目を向けさせてくれる。フロイドさんの事件後、日本でもBLM運動が起こったが、それは日本での黒人差別だけでなく、入管収容所をはじめとした多くの人権侵害に関心を寄せることへ繋がった。日本のストリートから社会の数々の矛盾と不正が告発されている。また、ヒップホップ・カルチャーは日本にも根付き、若者に

とって社会の生きにくさを表現する空間でもある。セイクウ牧師がヒップホップ世代を「神学的行為者」とみなし、インナーシティにおける若者の影響力(「ジュヴィノクラシー」)に注目したように、日本で暮らす私たちや日本の教会は、社会の周辺へ追いやられた人々の多様な《声》に真剣に耳を傾けなければいけない。

本書は、セイクウ牧師のプレイリストを聴いているのかのように、ページをめくるたびに新しい曲に魅了され、力強い言葉が魂に突き刺さる。最後に、本訳書に収められている訳注、訳者解説、アーティスト索引は、読者の思索に欠かせない手引きとなるであろう。

(ねるそん・はしもと・じよしゅあ・りょう) 四国学院大学准教授
〔B6変型判・一六〇頁・定価二六四〇円・新教出版社〕



キリスト論

〔改革派教義学〕第4巻

牧田吉和
Yoshikazu Makita



キリスト理解によって
信仰のあり方が決定される。
本書は改革派神学の特色である
包括的視点から捉える。
信仰者が人生の全領域において、
神の栄光のために
生きる者とされることを願う。

=== 全巻完結!! ===

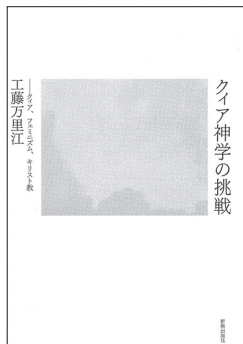
A5判・上製・函入
定価 5,280 [本体4,800+税] 円
ISBN978-4-86325-049-9



株式会社 一麦出版社
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10
TEL (011) 578-5888
<http://www.ichibaku.co.jp>
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

多様な性のありように見る 固定化と本質化を問う

〈評者〉 絹川久子



クイア神学の挑戦
クイア、フェミニズム、
キリスト教
工藤万里江著



最近耳にするようになったクイア神学という言葉。

クイアって？ クイアと神学は結びつくの？ などの問いも浮かぶ。著者工藤万里江さんは、さらにクイアとフェミニズムの交差する場にも挑戦しながら、私たちの問いに答えようとする。出版物で迎えることのできる三人の女性神学者の「クイア神学」を紹介、分析した上で、クイア神学そのものの多様な内実を明らかにするユニークで極めて明晰な著作だ。

三人が展開するクイア神学に見える相違点と共通点を探りつつ、著者自身が考えるクイア神学の課題と可能性について論を進めていく。実は扱っている内容は混み入っているし、互いにかなり違う三人なので、理解するのも容易ではないかと思いきや著者の文章は極めて明快で、よくもここまでこなせるものだと思心するほどだ。楽しく読めるので、心からお勧めする。

アルゼンチンと政治的社会的背景や神学的立ち位置は異なり、活動の時期も少しずつずれながらも、クイア神学の生成期を担った女性たちだ。

著者は2〜4章に渡って、それぞれのクイア神学への貢献を記述しつつ、彼女たちの間に見られる共通点および相違点を浮き彫りにする。クイア神学がいかに多様であり、定型化が不可能であるかを自然に理解させてくれる。にもかかわらず、そこに内在する課題と今後への可能性を探ることが著者の取り組んだ目的でもあった。

神学の異性愛主義や性をめぐる本質主義に抵抗すること
を基盤に、三様の展開を見せるユニークな表現にまずは驚きを隠せないかもしれない。ヘイワードはエロティック概念を神と結びつけ、キリストとの正しい関係に身体性を導

解放の神学やフェミニスト神学が登場したときもそう

だったように、クイア神学そのものはいまだその内容を定義してしまえるほどではない。差別語としての出自を持ち、抵抗の言葉としてアクティビストたちが活用してきた「クイア」は、異性愛規範に抵抗、批判、転覆する意図を持つ理論として発展してきた。クイア神学は「絶えず自身の枠組みを無効化していくような働き」を持つと著者も言う。だとすれば、読者の興味はますますかき立てられる。どのような営みが展開されるのだろうか。

紹介される三人の女性クイア神学者とは、フェミニスト・レズビアンを名乗るカーター・ヘイワード、真のキリスト者だけがアイデンティティ・カテゴリーとして有効だと主張するエリザベス・スチュアート、フェミニスト解放の神学から出発したが自らを変革していくマルセラ・アルトハウスリッドだ。それぞれ、アメリカ合衆国、イギリス、

入する。スチュアートは性的アイデンティティの脱構築化を求めてゲイ神学・レズビアン神学とは異なる視座を追求し、キリスト教は本来クイアだったとの結論に至る。アルトハウスリッドは、『下品な神学』を出版し、セクシュアリティの視座に注目しつつ、下品・不適切だと考えられてきた人々それぞれの出来事や経験からこそ神学することの意味を見いだしていく。

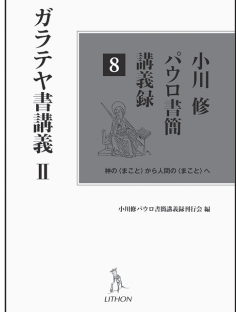
著者自身、性的アイデンティティ・カテゴリーの重要性を説きつつ、カテゴリー自体の有効性を根源から問い、その固定化・同質化に抗う視座を常に伴っている必要があるとの立場を取り、アルトハウスリッドの姿勢にもっと大きな可能性を見ている。次への発展的展開が楽しみだ。

(きぬかわ・ひさこ)フェミニスト神学

(A5判・三一六頁・定価四七三〇円・新教出版社)



新刊



小川修パウロ 書簡講義録8 ガラテヤ書講義 II

小川修パウロ書簡講義録刊行会編
●A5判上製 二九七頁 ●定価三三〇〇円

【本講義録(全10巻) 最終回配本】

小川修先生が長年追い求め掴まれた福音理解は、ひとことでは言えませんが、「神の(まこと)から人間の(まこと)」(まこと)というパウロの福音理解であった。

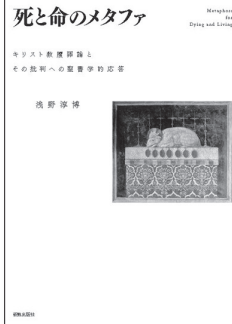
一般信徒を前にした、最後の講演「パウロは何を説いたのか」を収録。

LITHON [リト]

〒101-0061 千代田区神田三崎町2-9-5-402
☎ 03-3238-7678 FAX 03-3238-7638

贖罪論をめぐる現時点での 最も包括的な考察

〈評者〉村山盛葦



死と命のメタファ
キリスト教贖罪論とその批判に
対する聖書学的応答
浅野淳博著



本書は、日本の代表的な新約聖書学者によって手がけられた、キリスト教贖罪論の「解体新書」である。贖罪論に関する神学書は数多く存在するが、聖書テキストに堅実に基づいた包括的な研究書は、評者が知る限り出版されていない。

全体は、プロローグ「移行性と加虐性」、第1章「苦難の僕と移行性（移行主題か啓発主題か）」、第2章「マカバイ殉教者の記憶」、第3章「イエスと神の国」、第4章「原始教会の伝承」、第5章「パウロの回心とその神学的特徴」、第6章「パウロからその後の初期文献へ」、第7章「2世紀殉教者の証言」、エピローグ「畑を耕す」からなる。補論として「塵芥について（一コリ4・13b）…イエスの死を説明するメタファに関する一考察」がある。構成上の特徴として、各章の冒頭に中心課題の明示、各項に要約の

ボックス、章末に三択問題やショート・エッセイ問題があり、学習用に工夫が施されている。

本書は一貫して「犠牲のメタファ」という概念でユダヤ・キリスト教のテキストを読み解いていく。つまり、犠牲が何を象徴するかである。浅野氏によると、それは「移行主題」（人の違反行為の責任と結果とが他者に移行する）と「啓発主題」（人に悔い改めと誠実さ（義）を啓発する）の二つの側面をもっている。前者は人身御供的な思想であり「責任の転嫁」を促す。ここでは、多数者が個人や少数者を犠牲とし、これに責任を押し付け（スケープ・ゴートの）、人の死や犠牲に満足するという神のサディズム「加虐性」が認められる。それに対して、「啓発主題」は、悔い改めと「責任の自覚」を促す。ここでは、死や犠牲の衝撃によって信仰者の「パラダイム転換」が生じることがポ

イントとなる。この方向転換によって、その死と犠牲が自分たちの代わり（代理贖罪）ではなく、自分たちのせいで生じたことを悟る（「パラダイム転換的な悟り」）。つまり、イザヤ書の「苦難の僕」の詩の「わたしたち」のように、「僕が苦しんだのはじつに私たちのためだったので私たちは悔いた」という責任の自覚が促されるのである。

浅野氏は、ユダヤ教の神殿犠牲には、そもそも共同体成員の敬神と道徳性を向上させる「啓発主題」が内包されていると論じる。その主題は、イザヤ書の「苦難の僕」において顕著に展開され、マカバイ殉教物語へと引き継がれ、殉教者の死の救済的意義が「社会的記憶」として形成されて行った。そして、そのようなユダヤ人共同体で共有された記憶の中で、歴史のイエスは神の国運動を展開し、彼自身の犠牲と死が弟子たちと「多くの人」にこの運動を継承させる啓発主題として機能することを希求した。その後、パウロを始めキリスト信仰者たちも悔恨と回心を経て、神の国運動によって示されたイエスの生き様に参与して行った。ただ、ヘブライ書において、イエスと神殿犠牲とが一体化し、1世紀末頃からイエスの死の説明に「移行主題」が含意され始めた。伝統的なキリスト教贖罪論は、まさにこの「移行主題」の側面と「加虐主題」を包含して展開し

て行った。そこでは、キリストがあらゆる罪をかぶって犠牲となったため、私たちの罪が赦され、私たちの罪に対する神の怒りが回避された（「移行主題」）。それゆえ、キリストの犠牲は、怒りに満ちて復讐する神の裁きの結果と見なされる（「加虐主題」）。そして、このような贖罪論が「犠牲のシステム」としてキリスト教神学において現在に至るまで稼働してきている。

本書は、「はじめに」でふれているように、高橋哲哉の『犠牲のシステム福島・沖縄』（集英社新書）の読後感の悪さに刺激され執筆された面があるという。高橋氏が批判するキリスト教贖罪論は、イエスの死についての「移行主題」と「加虐主題」とが包含された贖罪論のことである。しかし、このような贖罪論は聖書テキストの思想を代表しているのか、浅野氏は粘り強く問いかける。著者のキリスト信仰とこの世への自覚的なコミットメントが本書全体に底流しているがゆえに、本書は本格的な研究書でありつつ、一冊の信仰の書としての風貌も見せている。多くの学びと気づき、問いが与えられる良書である。以上はほんの一部の紹介である。ぜひ、多くの人々にじっくりと読んでもらいたい。

（むらやま・もりよし）同志社大学教授
（A5判・三六〇頁・定価二九七〇円・新教出版社）



お陰様で満 35 周年を迎えることが出来ました。良書を提供できるよう邁進したく思います。



岩本遠億

366日元気が出る聖書のことば



鎌野善三

3分間のグッドニュース

「キリストの平和教会教師」
「神田外語大学大学院教授」
「あなたにはひとりではない」

森住ゆき 和紙ちぎり絵作家：私は今まで、これほど心にしみる聖書日課を読んだことがありません。
中澤啓介 大野キリスト教会宣教師：この50年間、私は、デポーシヨナルな書物を毎年変えながら家庭礼拝を守り続けてきた。一番良かった書物は何か？
文句なく「366日の・・・書物だ」と答えたい。
第4版出来！ A5判変型上製・三二八頁・一九八〇円

岩本遠億先生の自伝的エッセイ編集集中！「ご予約承り中」
聖霊の上昇気流 (仮題)
7月刊行予定 四六判・二二四頁・予価一七六〇円

絶賛発売中！
3分で一章まるっと
聖書全巻呑み込める！

- 3分間のグッドニュース
- 3分間のグッドニュース
- 3分間のグッドニュース
- 3分間のグッドニュース



好評再版！
各巻 A5 判美装・1760円

再版準備中！ 新書判・一六〇頁・一一〇〇円

2021年刊行の話題の既刊書！ シリーズは再版準備中

金子晴勇 **キリスト教思想史の諸時代** 全7巻 刊行中！
II アウグスティヌスの思想世界 別巻2 272頁・1320円
III ヨーロッパ中世の思想家たち 272頁・1320円
IV エラスムスと教養世界 288頁・1320円

金子晴勇 **東西の霊性思想** キリスト教と日本仏教との対話
再版！ 四六判上製・288頁・1980円

大頭真と焚き火を囲んで聴く神の物語・説教篇 モーセ五書全8巻刊行中！
③ 栄光への脱出―出エジプト記 192頁・1210円
④ 聖なる神の聖なる民―レビ記 192頁・1210円
⑤ 何度でも何度でも何度でも愛―民数記 264頁・1210円

河野勇 **一人はどこから来て、どこへ行くのか？**
《神のかたち》の人間観 四六判上製・400頁・2200円

小友 聡 **謎解きの知恵文学 旧約聖書・「雅歌」に学ぶ**
新書判・224頁・1210円



〈宮城学院女子大学名誉教授〉新免貢先生ご推薦！
早坂文彦 〈心理相談室主宰 臨床心理士、公認心理師〉

「洗礼をめぐって」
今日聖書はなにを語っているか
洗礼そのものは救いをもたらさない。
まして教会加入の儀式などではない。
洗礼を権利と義務へ制度化してきた教会のあり方を聖書原典を分析・解釈、精読することによって批判・検討し、「水で始まり、火で終わる」洗礼を受けたナザレ人イエスを遡行することで洗礼本来の意味に迫る「洗礼論」！
新書判・二二四頁・二二〇〇円

■キリスト新聞社
アメリカキリスト教入門
大宮有博著

米国の政策を知る上で切り離せないアメリカ・キリスト教史を、「イギリス人植民地の誕生」から「バイデン大統領の時代」まで、専門用語をなるべく避け、初学者にも理解しやすいよう解説する。アメリカの文化のみならず、日本のキリスト教会や世界情勢を理解する鍵にもなる一冊。
A5判・288頁・定価2860円

■教文館
吉野作造と海老名弾正
吉野が「海老名門下のクリスチャン」とされる理由
關岡一成著

大正デモクラシー運動の主導者・吉野作造に影響を与えたキリスト教精神の真髄とは、どのようなものだったのか。信仰の師・海老名との交流から吉野の「民本主義」思想の源泉を探る斬新な研究。
四六判・222頁・定価1980円

INFORMATION

近刊情報

ウイリアムス神学館叢書V
今さら聞けない!? キリスト教
――聖公会の歴史と教理編
岩城 聰著

聖公会（アングリカン・コミュニオン）とはどのような教会なのか。主教制とともに信徒の同意を重視する（実践の共同体）の特徴を、歴史と教理からやさしく解説。用語解説コラムと資料も充実！
A5判・220頁・定価未定

■新教出版社
反ナチ抵抗運動とモルトケ伯「仮題」
兩宮栄一著

「クライザウ・サークル」と呼ばれる反ナチ・グループの中心人物としてゲシュタポに逮捕され刑死した法律家モルトケ伯の評伝。著名な元帥の甥の孫であり、広大な領地を所有するユンカーだった伯が、反ナチの思想と行動に至るプロセスを丹念に追う。著者の遺作。
四六判・330頁・予価2700円

『本のひろば』のバックナンバーを Web 上で閲覧できます。下記アドレスから「『本のひろば』バックナンバー」にアクセスしてください。

<https://honhiro.com/>

2021年4月号

書名	著・訳・監修者、出版社	書評者
巻頭エッセイ：キリスト教と恋愛 小檜山ルイ		
「修復的正義」を知るにはこの三冊！ 石原明子		
やさしさの贈り物	片柳弘史著、教文館	末森千枝子
ただ一つの契約の弧のもとで	武田武長著、新教出版社	畠山保男
内村鑑三の聖書講解	小林孝吉著、教文館	富岡幸一郎
加藤常昭説教全集 36 新約聖書書簡の説教 2	加藤常昭著、教文館	三浦陽子
テゼ共同体と出会って	上垣勝著、サンパウロ	植松功
ナウエン・セレクション アダム	ヘンリ・ナウエン著、日本キリスト教団出版局	長沢道子
どう読むか、新約聖書	青野太潮著、ヨベル	早坂文彦
焚火を囲んで聞く神の物語・説教篇 栄光への脱出	大頭眞一著、ヨベル	関真士
カール・バルト研究	宇都宮輝夫著、新教出版社	寺園喜基
関西学院大学神学部ブックレット 13 音楽と宣教と教会	関西学院大学神学部編、キリスト新聞社	中山信児
新版・教会歴による説教集 イースターへの旅路	荒瀬牧彦編、キリスト新聞社	松本雅弘
ジーザス・イン・ディズニールランド	デイヴィッド・ライアン著、新教出版社	坪光生雄

2021年5月号

巻頭エッセイ：読人書一人を読む書 松谷曄介		
「日本キリスト教史」を学ぶにはこの三冊！ 村松 晋		
キリスト教古典叢書 キリスト教信仰	F. シュライアマハー著、教文館	川島堅二
アウグスティヌス著作集第 19/ II 詩編注解 (4)	アウグスティヌス著、教文館	加藤武
CATS 日本キリスト教会大信仰問 答 (ビジュアル版)	日本キリスト教会著、一麦出版社	伊藤悟
香港の民主化運動と信教の自由	松谷曄介編訳、教文館	山口陽一
キリスト教	H. キュンク著、教文館	阿部仲麻呂
起き上がり小法師	Solae (ソラ) 作・いしいくみこ絵、ヨベル	角田芳子
平和をつくり出す神の宣教	西岡義行責任編集、ヨベル	藤本満

書店名	郵便番号	住所	電話	ファックス	URL	メール	郵便振替
北海道キリスト教書店	060-0807	札幌市北区北七条西6丁目	011-737-1721	011-747-5979	http://www.jp-shop.com	sasaki@jp-shop.com	02770-2-56520
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用		zenrikan_system_0530@yahoo.co.jp	02350-0-874
仙台キリスト教書店	980-0012	仙台青葉区1-36 教団センター・エッセイF	022-223-2736	共用		fcwkwk524@ybb.ne.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	千葉市中央区新館2-2 千葉カリスチャペルビル	043-238-1224	043-247-3072	http://www.keisen.christian.jp	keisen@vestia.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.avaco.info	xbooks@kyobunkwan.co.jp	00120-2-11357
アバコ・ブックセンター	169-0051	東京都新宿区西早稲田2-3-18	03-3203-4121	03-3203-4186	http://www.avaco.info	avaco@avaco.info	00130-0-96398
待望堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	共用	http://taishindo-books.jimbo.com/	taishindo@jcom.home.ne.jp	00110-8-95827
バイブルハウス南青山	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3567-1995	03-3567-4435	http://biblehouse.jp	biblehouse@bible.or.jp	00160-2-18410
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881	http://www.tuighteig.jp/~yokohamais/index.html	sksch@mva.biglobe.ne.jp	00250-4-2512
清光書店	951-8114	新潟市営所通一番町313	025-229-0656	共用			00560-8-51419
静岡聖文舎	420-0866	静岡市葵区西草深町20-26	054-260-6644	054-260-5612	http://www.s-seibun.co.jp/	info@s-seibun.co.jp	00810-8-26558
名古屋聖文舎	464-0850	名古屋市中区今池5-28-4	052-741-2416	052-733-2648	http://nagoya-seibunsha.la.coccan.jp/	nagoya-seibunsha@nifty.com	00810-5-14073
京都ヨルダン社	602-0854	京都市上京区荒神口通河原町東入ル	075-211-6675	075-211-2834	http://web.kyoto-net.or.jp/people/kjordan/	kjordan@mbox.kyoto-net.or.jp	01010-2-594
大阪キリスト教書店	530-0013	大阪市北区茶屋町2-30	06-6377-6026	06-6377-6027	http://osekacbs.web.fc2.com/	ochrbook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
バイブルハウスびるすの森	591-8041	堺市北区東雲東町1-1-16	072-257-0909	072-253-6132		sakai_jbs@bible.or.jp	00160-2-18410
神戸キリスト教書店	650-0021	神戸市中央区三宮町3-9-18三陽ビル2F	078-331-7569	078-945-9388		kobex@nikkihan.co.jp	00170-2-421390
広島聖文舎	730-0841	広島市中区舟入町12-7	082-208-0022	082-208-0177		hseibun0951@yahoo.co.jp	01360-4-1958
リバーサイドブックス	779-1105	徳島県阿南市羽ノ浦町古大道/西13	090-8694-4986	050-3142-3017		ykwbt3@gmail.com	16220-17974891
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一丁目1-23	089-921-5519	089-921-5413	http://www.geoties.jp/matsuyama_1007/mbs.html	sksch@dokidoki.ne.jp	01650-1-2120
北九州キリスト教ブックセンター	802-0022	北九州小倉北区上富野5-2-18	093-967-0321	共用		kcbookcenter@bible.or.jp	01780-4-39965
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484	http://www.sinseikan.jp/	info@sinseikan.jp	01750-5-10932
キリスト教書店ハレルヤ	862-0971	熊本市大江4-20-23	096-372-3503	共用		k-haleruya@bible.or.jp	00160-2-18410
沖縄キリスト教書店	904-2151	沖縄市松本7-18-7	098-927-0220	098-938-1102	https://www.okinawacbs.net	info@okinawacbs.net	1790-4-152916

※一般書店関係の方は 日キ販営業部 TEL 03-3260-5670 にご連絡ください。

福音と世界

2022年5月号

特集 ユートピア再訪

寄稿者 池田浩士、曾田長人、役重善洋

吉村正和、高岡尚子、伊吹美貴子

本誌七〇周年に寄せて（戒能信生・大嶋果織）
／新連載 コデイ・J・サンダース&アンジェ
ラ・イエバー『教会におけるマイクログレ
ッション』（翻訳・解説 眞下弥生）／好
評連載 ルカ福音書（山崎ランサム和彦）、『日
本的キリスト教』を読む（山口陽一）ほか

A5判・定価660円・〒70円
定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

新教出版社 TEL: 03-3260-6148
Email: sales@shinkyō-pb.com

から室集編



二年ばかり散髪に行くのを億劫がっているうちに、髪の毛がだいぶ伸びました。久しぶりに会った人に話しかけると、みなさん「この人、誰？」という表情を一瞬浮かべるのがちよつと面白いです。マスクをして

ている上に髪型が変わると、確かに誰だか分かりませんね。髪を伸ばしたことで、いくつか発見がありました。ラーメンを食べるときにどれほど面倒か。よい髪質を保つためにどれほど手間がかかるのか。不器用な人間にとって、ヘアゴムできれいに髪を束ねるのがどれほど難しいか。ささいなことながら、私にはどれも新鮮な経験です。

ロン毛ということばが流行したころ、私は決してああいう髪型にはしないぞと心に決めていました。「男らしくな

予告

本のひろば

2022年6月号

本・批評と紹介

（巻頭エッセイ）森下辰衛、（特集）「正教会の信仰を学ぶにはこの三冊―」（書評）ミヒャエル・デ・リッター著『生命との別離―事前医療指示書から緩和医療に至る手引き』、月本昭男著『見えない神を信ずる―月本昭男講演集』他

い」と思っていたのです。今にして思えば、なんとまあ狭い考え方をしていたものでしょう。その私が齢四十を過ぎて髪を伸ばし、毎日せっせとクエン酸水溶液で髪をすすいでいる。人間変われば変わるものだと思います。

そう、人間は変わるので。かつて正しいと思っていたことがひっくり返ることなんていくらでもあります。その時に、慣れ親しんだかつての正しさにしがみつくな、それとも新しく目の前に広がっている世界へと一歩踏み出すことができるか。身構えなくなつて、新しい世界への扉はあちらこちらにあるはず。いつもとちよつと違う道を歩く。買ったことのない野菜を買ってみる。はじめて聞いた名前の料理を食べてみる。

変化を恐れず、しなやかに今日一日を生きたいものです。

（白田）

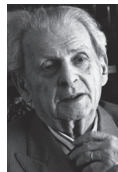
レヴィナスの時間論

4月25日

内田樹著 『時間と他者』を読む

レヴィナス思想の戦後の出発点を告げる『時間と他者』。難解をもって鳴る同書を徹底的に精読・註解することを通して、深い苦しみの時間を生き抜いたユダヤ人の希望の時間論が浮かび上がってくる。著者の「レヴィナス三部作」ついに完結。

◆四六判・定価2860円



詩人は聖書をどのように表現したか

柴崎聰著 日本の近現代詩人16名を読む！

4月25日

信仰者かつ優れた実作者である著者のみが生み出せる透徹した読み。取り上げるのは島崎藤村／三木露風／山村暮鳥／八木重吉／石原吉郎／安西均／島朝夫／高野喜久雄／片瀬博子／塔和子／澤村光博／高橋喜久晴／野村英夫／島崎光正／阪田寛夫／森田進。

◆四六判・定価2210円

ヤバイ神

不都合な記事による旧約聖書入門

トーマス・レーマー著／白田浩一訳 待望の書！

3月25日



旧約聖書の神はなぜ横暴で残酷に見えるのか。そんな記述をどう解釈すべきか。多くの人が躓くテキストを旧約学の第一人者が取り上げ、それらの表現の意味と理由を考察し、愛と解放の真の神の「人柄」に迫った、目からウロコの書。

◆四六判・定価2420円

ビリー・グラハムと「神の下の国家」アメリカ

相川裕亮著 福音伝道者の政治性

(あいかわ・ゆうすけ氏は広島大学法学部助教)

アイゼンハワーからオバマに至る歴代大統領と親密な関係結び、「アメリカの牧師」として彼らの政策に有形無形の影響を及ぼしたビリー・グラハム。主に冷戦下70年代までの思想と行動を〈福音伝道者〉という観点から解明した俊英の力作。

3月10日

◆四六判・定価2750円

死と命のメタファ

4月1日

キリスト教贖罪論とその批判への聖書学的応答

浅野淳博著

「贖罪」とは何か？ イエスの死と命の救済的価値とは何か？

「キリストは人間に代わって罪を負い、いけにえとして死んだ」という代理贖罪的な表現はどこまで適切か。少数者に犠牲を強いる「犠牲のシステム」をキリスト教神学が内包しているとする哲学者・高橋哲哉氏の議論を批判的に捉えつつ、聖書が伝えようとしているキリストの死に至る生き様の真の意味を探り、その意味をいかに語るかを方向づける。

◆A5判・定価2970円

2022年 三浦綾子生誕100年 記念出版

愛は忍ぶ 三浦綾子物語

挫折が拓いた人生

三浦綾子記念文学館 監修
日本キリスト教団出版局 編

『氷点』で一躍国民的大作家となり、今なおファンが多い三浦綾子。敗戦による教育者としての挫折、自殺未遂、13年間の闘病。しかしその挫折こそが彼女の人生を花開かせた。写真を交えつつその道のりをたどる。

◆A5判変型 並製・80頁・定価1,320円

2022年4月25日刊行



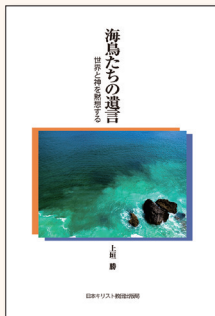
好評発売中 『三浦綾子 祈りのことば』 おちあいまちこ 写真 定価1,320円

海鳥たちの遺言

世界と神を黙想する

上垣 勝

2022年4月18日刊行



戦争、環境問題、人権、差別……今、世界で起こっているあらゆる事柄と、一人一人の人生との関わりを聖書から聴き取る説教18編。
◆四六判 並製・208頁・定価2,420円

ここが変わった!

「聖書協会共同訳」

大島 力/小友 聡/島先克臣 編著 旧約編



新翻訳聖書「聖書協会共同訳」はどう変わったのか。従来の「新共同訳」や「新改訳2017」等と対比しつつ、旧約全体から27項目を解説。
◆四六判 並製・128頁・定価1,320円

本
の
ひ
ろ
ば
一九五七年七月一日 第三種郵便物認可
二〇二二年五月一日発行(毎月一回一日発行)
第七七三号 二〇二二年五月号

発行所 〒163-0814 東京都新宿区新小川町九-1 一般財団法人キリスト教文書センター
電話03-3361-6511 振替0170-511677
発行人 金子和人 編集人 白田浩一 印刷所 モリモト印刷株式会社
日本キリスト教書販株式会社 電話03-3361-5670

定価七八円(税抜七一円) (≒63円)
二年分二三〇〇円(送料共)